

# OWOL

Our Water Our Life  
—南九十九里プロジェクト—  
海水調査結果(化学分析)

採取日: 2018年6月2日 潮廻り: 中潮 天候: 晴

ポイント	採取時間	気温	水温	波サイズ	海面状況	風	油膜の有無	空間線量	水質判定
東浪見	9:13	23.0°C	21.0°C	コシ~ハラ	ややザワ	東・やや強	無	0.01 $\mu$ Sv/h	AA(適)
釣ヶ崎	9:50	25.0°C	21.0°C	モモ	ややザワ	東・強	無	0.02 $\mu$ Sv/h	AA(適)
太東	9:35	23.0°C	20.0°C	コシ~ハラ	ややザワ	東・弱	無	0.02 $\mu$ Sv/h	AA(適)
一宮	10:20	23.0°C	21.0°C	コシ	ややザワ	東・やや強	無	0.02 $\mu$ Sv/h	AA(適)
一松	10:35	23.0°C	21.0°C	コシ~ハラ	ややザワ	東・強	無	0.02 $\mu$ Sv/h	AA(適)

ポイント	所 見
東浪見	基準に適合し遊泳に支障ない。
釣ヶ崎	基準に適合し遊泳に支障ない。
太東	基準に適合し遊泳に支障ない。
一宮	基準に適合し遊泳に支障ない。
一松	基準に適合し、遊泳に支障ない。但し、アンモニア性窒素が高い数値で検出されているため、遊泳に注意する必要がある。原因として、し尿由来の汚染ではなく海草に含有されているアミノ酸が分解されてアンモニアが生成されたものであることが考えられる。

## 検査結果

	東浪見	釣ヶ崎	太東	一宮	一松	基準値
透明度	全透	全透	全透	全透	全透	0.5m以上 又は前透
水素イオン濃度 (pH)	8.3	8.3	8.3	7.8	8.2	7.8~8.3
科学的酸素要求量 (COD)(mg/l)	1.4	1.4	0.9	1.0	1.6	8以下
塩化物イオン (mg/l)	16,500	16,300	16,350	15,900	16,150	-
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.16	0.20	0.20	0.34	1.89	1以下
亜硝酸性窒素 (mg/l)	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.04以下
大腸菌 (コロニー/l)	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	1,000以下
腸球菌 (コロニー/l)	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	※

※腸球菌の基準について海水の場合は、100コロニー/100ml以下、河川や内陸水の場合は、200コロニー/100ml以下

## 海水・海底土調査(放射性物質分析)

ポイント	採取日	時間	測定日	測定機関
釣ヶ崎	6月2日	9:50	6月6日	東京都中央区豊海町5-1豊海センタービル (一財)東京顕微鏡院食と環境の科学センター豊海研究所

	測定項目	核種	測定結果	検出下限値	単位
海水	放射性セシウム	134Cs	不検出	0.7	Bq/kg
		137Cs	不検出	0.8	Bq/kg
測定方法	ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメータによる分析法				
測定方法の出典	放射能測定シリーズNo.7「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリ」(文部科学省 原子力安全化防災環境対策室)				
使用機種	Ge半導体検出器 Canberra MODEL GC3018				
測定条件	試料量2.10050kg、測定時間 1300秒				
測定容器	マリネリ容器(2L)				

	測定項目	核種	測定結果	検出下限値	単位
海底土	放射性セシウム	134Cs	不検出	0.7	Bq/kg
		137Cs	不検出	0.8	Bq/kg
測定方法	ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメータによる分析法				
測定方法の出典	放射能測定シリーズNo.7「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリ」(文部科学省 原子力安全化防災環境対策室)				
使用機種	Ge半導体検出器 Canberra MODEL GC3018				
測定条件	試料量1.73810kg、測定時間 1500秒				
測定容器	マリネリ容器(1L)				